

ヒバリの偽傷

ヒバリの偽傷とは、敵が巣に近づくと、親鳥は営巣の近くで怪我を負ったかのように振舞い飛べないで、もがいているような仕草で羽をばたつかせ、侵略者の注意を自分に向けさせ巣を守ろうとする。侵略者がこれに気がついて追いかけてきたら作戦は半ば成功。これを偽傷行動という。

澄川の活動地、6月10日(火)am.11:20。駐車場前の草刈時、刈払機の前をヨチヨチ歩きの何かが走っている。作業を中断して捕まえてみるとヒバリの雛。くちばしがまだ黄色で歩くのもおぼつかない様子だ、刈払機に驚いて営巣から飛び出したらしい。近くを探すと植栽広葉樹の根元に営巣を見つけた。

営巣は親鳥が目一杯羽を広げて巣全体を覆いかぶせ、巣全体を守っていた。捕まえた雛を親鳥のその広げた羽の中に押し込んでやるとすんなり潜り込んでいった。とりあえず安心。その間、羽を広げた親鳥は微動だにせず眼だけキョロキョロさせていた。



巣を覆う親鳥の様子



と、2mほど離れた場所で別の親鳥らしいヒバリが偽傷行動で周りを這いつくばっている。偽傷行動でこちらの注意を引いている様だ。オス、メスの確認ができず、写真の切り取りもできなかった、残念。

草を刈られて営巣が丸見えになってしまった



が、雛の大きさから言って巣立ちはあと3~4日ほどと思われる。可哀想だがこのまま我慢してもらおうほかない。

ヒバリは雲雀と書いて奈良時代から見られる名とある。スズメ目ヒバリ科の鳥で全長約17センチ。体は褐色で黒い縦斑があり、頭頂に冠羽をもつ。草原や河原、農耕地などに生息。食性は植物食傾向の強い雑食で、主に種子を食べるが昆虫、クモなども食べる。地表を徘徊しながら採食を行い上空を長時間停空飛翔(ホバリング)したり、草や石の上などに止まりながら囀る。

繁殖期が始まるとオスが囀りながら高く上がって行く「揚げ雲雀」と呼ばれる縄張り宣言の行動は古くから親しまれている。和名は晴れた日(日晴り)に囀ることに由来する説や、囀りの音に由来する説もある。

地表(主に草の根元)に窪みを掘り植物の葉や根を組み合わせたお椀状の巣をメスが作り、1回に3-5個の卵を産む。抱卵期間は11-12日。雛は孵化してから9-10日で巣立つ。繁殖期にはつがい生活し、非繁殖期には小さな群れで生活する。(<http://ja.wikipedia.org/wiki/>)

澄川の森もこの10年、小鳥の数が心なしか増えているような気がする。(文・西野)